



第18回

未来を語ろう!

～未来を表してみよう～

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

学習のポイント

- be going toを使って、これからやろうとしていることや、起こることが表現できる
- willを使って、これから起こるであろうことや、決意を表現できる

be going to を使って、これからやろうとしていることや、起こることが表現できる

■コミュニケーション

私たちは言葉を使って以前起こったことや、今起こっていることなどを表現します。同じように、これから起こることについても表現できます。例えば、「この週末にコンサートに行きます」という文は、話し手が今週末にやろうとしていることを言い表しています。「2020年に東京でオリンピックが開かれます」ということは、数年先に起こることを述べています。

英語では、これからのことを言うときに、**be going to**あるいは**will**を使って表現します。**be going to**の元々の形は**go to**で、これは「どこどこへ行く」という意味です。それが、今そうしているという意味を表す**be going to**になり、さらにその形を使ってこれから起こることを表現しているものです。このため、この**be going to**は、これからすぐ後に起こること、あるいはこの後必ずそうなるであろうことを表現するときによく使われます。

A: Where are you going? (どこに行くの)

B: I am going to the department store. (今デパートに行くところ)

A: What for? (何しに)

B: I am going to buy a raincoat. (レインコートを買おうと思って)

はじめのB:の**be going to**は、「今～に行くところ」という意味です。2番目のB:の**be going to**は「(これからデパートに行って)レインコートを買おうと思って」と、この後にやることを述べています。2番目のように、**be going to**を使うと、この後すぐに何かをやろうとしている感じを表す表現となります。

willを使って、これから起こるであろうことや、決意が表現できる

一方、**will**を使うと、「そうなるであろう」ということが表現できます。
例えば、

A: When will we have the Olympic Games in Tokyo?

(東京でオリンピックがあるのはいつなの?)

B: We will have it in 2020. (2020年です)

A: Many people will come to Tokyo then. (そのときはたくさんの人が東京に来るでしょう)

B: I hope I will be able to see the game in the stadium.

(競技をスタジアムで見られるといいなあ)

この会話は、どれもまだ先のことであり、特に後半はそうなるであろうといういわば予測や希望を言っています。このようなことを表現するときには、**will**を使います。

この**will**ですが、自分の強い意思を表明するときにも使います。**will**は、元々は「～するぞ!」という強い意思を表す語でした。そのため、

I will pass the university entrance exams! (大学入試に合格するぞ!)

I will be the captain of my baseball team! (野球チームのキャプテンになるぞ!)

のように、決意表明などをするときに使われます。

■単語や表現

fix

壊れたり調子の悪くなったものを「直す」ことを意味します。

A: Philip, can you fix the computer. It does not work well.

(フィリップ、このコンピュータ直せる。どうも調子が悪いんだ)

B: No, I don't think I can. Sorry. (ちょっと無理だね。ごめん)

A: Where can I fix the flat tire of my bicycle? (自転車のパンクはどこで直せるの)

B: Go to the bike shop. They can fix it. (自転車屋に行けば。直してくれるよ)

clean up

番組で、直美がフィリップに、**You are going to clean up both rooms.** (両方の部屋を掃除しといて)と言っています。この場合、**up**を使わずに、**clean both rooms**と言っても意味は同じになりますが、この**up**は、「しっかりと完ぺきに掃除しておいてよ」、というように**clean**の意味を強めて言うときに使います。

■英語のきまり

be going toの**be**は、**is**、**are**、**am**を代表した形です。質問する文も打ち消しの文も、これまで学習してきたルールで作ることができます。

Are you going to use this computer? (このコンピュータを使いますか)

I am not going to ask the same question. (同じ質問をするつもりはない)

What are you going to buy for the picnic? (ピクニック用に何を買いますか)

willは、これまで学習した**can**や便利屋さんの**do**と同じ仲間の語ですので、質問の文も打ち消しの文も同じようにして作ります。

Will it be all right? (これで大丈夫なのでしょう)

This train will not stop at Himeji. (この列車は姫路には止まりません)

Who will be the next Prime Minister? (次の総理大臣は誰でしょうか)

column

単語を発音してみよう ③

ph

ph は f と同じ発音です。phone は fone のように、graph は graf のように発音します。

同じような例に、Philadelphia (フィラデルフィア)、Philippines (フィリピン)、philosophy (哲学)、photo (写真)、phrase (フレーズ、語句)、physics (物理学) などがあります。この番組の出演者の名前は Philip ですが、発音はフィリップです。

phone とはギリシャ語で「音、声」という意味です。microphone (マイク)、telephone (電話)、earphone (イヤホン)、headphone (ヘッドホン)、interphone (インターホン) どれも音に関係した語です。

一方、graph はギリシャ語で「書かれたもの」という意味です。autograph (有名人などのサイン)、photograph (写真)、telegraph (電報)、pictograph (象形文字)、どれも書かれたものとの関係がある語ばかりです。



Blank lined area for writing practice.